◇ 肝機能

肝臓は“沈黙の臓器”と呼ばれ、少々のダメージにも自覚症状無く働き続けるため、異常に気づきにくいことが多いです。肝機能異常を指摘されたら、肝臓からのSOSと受け止め、早めに精密検査を受けましょう。慢性肝炎の大部分はB型・C型肝炎が原因ですが、その他にアルコール性肝障害や肥満による脂肪肝、薬剤性肝炎などがあります。

◆ AST (GOT)、ALT (GPT)

ASTは、心筋や骨格筋、肝臓の細胞に多く含まれる酵素で、ALTはほとんどが肝臓にある酵素です。肝臓が障害を受けると、肝細胞から血液中にもれ出てくるため、両方の数値を比較することで病気の種類を推測することができます。

◆ γ -GT (γ -GTP)

γ -GTは、主に肝臓や腎臓、膵臓などに含まれ、肝臓の解毒作用に関係する酵素です。特に過度な飲酒で数値の上昇が特徴です。アルコール性肝障害の診断に用います。

◆ ALP

ALPは、肝臓や胆道系の異常の有無を調べる検査です。ALPは肝臓、骨、腸、腎臓、乳腺、胎盤など多くの臓器に存在する酵素ですが、胆汁を介して肝臓から排出されます。AST,ALTに異常がない場合には肝臓や胆道系以外の病気が疑われます。

◆ LD (LDH)

LDは、体内で糖がエネルギーに変わるときに働く酵素で、体内の多くの臓器に存在します。心筋、肝臓、骨格筋の組織に障害が起こったときに上昇しやすい為、肝炎、肝臓がん、心筋梗塞などで数値は高くなります。

◆ ChE (コリンエステラーゼ)

コリンエステラーゼは、肝臓でつくられる酵素の1つで、肝臓に障害が起こると血液中の量が増えたり減ったりします。増減の量は障害の程度によって変わります。肥満者に多く見られる脂肪肝では高値に、低栄養状態や肝硬変では低値を示します。

◆ 総ビリルビン

肝機能検査の一種で、黄疸の有無や種類を調べる検査です。黄疸は、皮膚や眼球の白眼の部分が黄色くなる障害で、血液中のビリルビンが増えるために起こります。

◆ HBs 抗原

B型肝炎ウイルス(HBV)に感染しているかどうかを調べる検査です。

◆ HCV 抗体

HCV抗体が陽性ということは、現在C型肝炎ウイルス(HCV)が体の中にいる(感染している)状態か、過去にHCV感染したが、すでに治癒した状態のいずれかであることを示します。